

スクールソーシャルワークの支援方法に関する研究

—支援過程にみる協働アセスメントの展開—

○ 京都府立大学大学院 岡村 奈緒美 (8817)

キーワード：スクールソーシャルワーク・アセスメント・協働

1. 研究目的

スクールソーシャルワーカー（以下、SSWer）とは、子どもの抱える様々な問題に対して、ソーシャルワークの専門性や方法を用いて支援を行うことが求められる専門職である。しかし、現状のSSWerは、社会福祉士や精神保健福祉士などのソーシャルワークの専門的な資格を有する者だけでなく、多様な専門的基盤をもった人の呼称となっている。そのため、実践現場では、ソーシャルワークの専門性に基づいた支援が行われているといえない状況が散見される。このように専門的基盤がゆらいでいる状況ゆえに、実践でSSWerがソーシャルワークの専門的方法を獲得できることが重要であると考えられる。

このSSWerが用いる専門性の一つに協働がある。なぜなら、スクールソーシャルワーク（以下、SSW）では、教員と協働して支援を行うことが求められるからである。しかし現状では、SSWerと教育や指導の視点をもつ教員が共に支援を行うことの難しい状況がある。そのためSSWの方法の大きな課題は、教員と協働していくための専門的方法であると考えられる。そしてそれは、子どもの問題を学校生活の問題だけでなく、家庭生活や地域生活における問題も含めて、包括的にとらえ支援することである。また、この協働ではSSWerが、教員や当事者である子ども、家族と共にすすめていくことが必要になる。そして、その協働の入口として、SSWでは包括的に問題を把握するアセスメントが重要となる。

そこで、本研究ではSSWerが教員や子ども、家族と共にを行う固有なアセスメントを協働アセスメントと称して、その意味や方法を明らかにしていきたい。

2. 研究の視点および方法

本研究では、まず文献等の先行研究をふまえてソーシャルワークにおけるアセスメントの定義やSSWで行われているアセスメント、教員や子ども、家族との協働の状況について整理を行うことにした。そこでは、SSWerが協働でアセスメントをする意味と、その協働アセスメントを困難にする学校現場特有の問題を明らかにすることにした。

次に、整理した内容をもとに社会福祉士や精神保健福祉士の資格をもつSSWerを対象にインタビュー調査を実施することにした。具体的にそれは、SSWerの協働でアセスメントを行うことに対する意識や具体的な方法、工夫について聞き取り、協働アセスメントの固有な要素を明らかにすることを目的としたのである。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき行っている。インタビュー調査はSSWer 本人と所属する市町村教育委員会に書面をとおして、調査の概要、データ及び個人情報取り扱いについて説明し同意を得て実施した。また、調査で得られたデータの管理と取扱いについては細心の注意を払った。

4. 研究結果

まず文献等の先行研究からSSWer が活動する学校現場の特質を明らかにし、そこから次のようなSSWにおける協働アセスメントを困難にする6つの要因を整理した。

- ①教育と福祉の視点の相違：問題への焦点化と指導的立場
- ②教育組織の価値観の強さ：集団や規範の重視
- ③学校文化の影響：教員の仕事の曖昧さや抱え込み
- ④組織の機能分化の現状：ケース会の機能や担任との接触の難しさ
- ⑤役割理解の不十分さ：SSWer についての浸透不足や勘違い
- ⑥当事者不在での介入：子どもや家族の問題意識と学校の捉える問題の違い

次にこの先行研究をふまえて行ったインタビュー調査では、協働アセスメントに焦点化すると、次のことが明らかになった。（なお、詳細は当日の資料で示す。）

- 1) ソーシャルワークの視点を教員に理解してもらうための工夫（①、②の要因）
- 2) 教員や子ども、家族とアセスメント情報を共有するための働きかけ（③、④、⑥の要因）
- 3) SSWer、教員、子ども、家族の役割の相互理解（⑤の要因）
- 4) 教員や子ども、家族と共通の問題認識をもつための取り組み（⑥の要因）

5. 考察

これまでの研究結果では、まずSSWにおける協働アセスメントを困難にしている6つの要因のうち①、②の要因に対するソーシャルワークの視点を教員が理解できるような工夫、③、④、⑥の要因に対するアセスメント情報共有のための働きかけ、⑤の要因に対する役割の相互理解、⑥の要因に対しての共通の問題認識をもつための取り組み、などを行っていることがインタビュー調査でわかった。しかし、そこで行われている工夫や取り組みはSSWer 独自のものであり、SSWの方法として体系化されていない。そのため、今後SSWにおける協働アセスメントの展開方法を構築することが必要である。協働アセスメントの展開方法をSSWerが行っている工夫から着手すると、次の研究課題がみえてきた。

- (1)SSWer が協働アセスメントを行うことの意識化
- (2)具体的な協働アセスメントの展開方法の提案
- (3)協働アセスメントを行うためのツールの検討